

2016

☆開館スケジュール☆

- ◆5月は14日(土)~20日(金)
- ☆若葉のころのおはなし会☆
- 14日夕方→大きい人向け
- 15日午前→小さい人向け
- ゲスト: 東京山の本文庫の皆さん
- ◆6月は通常18日(土)19日(日)
- ◆7月は16日(土)17日(日)&18日
- ★17日夕は駅前
- ＜海の日のおはなし会＞★
- ☆18日は、＜10周年記念・子どものためのおはなし会・スペシャル＞☆
- ◆8月は20日(土)~22日(月)

文庫の時間

土曜日は午後2時~5時

日曜日は午前10時~午後3時

☆子どものための小さなおはなし会

毎月開館日の日曜10:30~11:00

★おはなし沙羅の勉強会★

11:00-13:00(土)



北アルプス・常念岳(16.5.3)

文庫あれこれ◆GWの始めに来たときは、門から入ったところの白いモッコウバラのアーチの見事さにはっとしたのですが、10日しか経たないのに、今回は緑の蕾だったその先の赤いバラが目飛び込んできました。何もせずにいるこんな喜びに会えるのは花係Fさんのお陰。アートフェスティバル参加を理由に1週間開けるために、その準備でスタッフMさん、Sさん、Nさんと、数日前から手伝ってくれています。本当に、人と自然に恵まれて文庫は続けてこられたのだと、感謝です。いささか準備たらずですが、今月も文庫の棚から読んで!というかわいい声、静かな声に耳をかたむけてください。◆1週間開けています。いつでもおいでください。姫沙羅も緑の枝をいっぱいに広げてお待ちしています。新刊も入りましたよ。(西村)

14日夕、15日午前のおはなし会もぜひ♥♥♥
緑の気を吸い込み、天の恵みの今を存分に楽しみましょう。



沙羅の樹文庫 0557-51-3737
<http://www.saranokibunko.com>
伊東市大室高原7-122

御蔵山の朝(5・5) 西村夫撮影

沙羅の樹文庫だより



5月の文庫・白モッコウと赤いバラ

薔薇ノ木ニ 薔薇の花サク。
ナニゴトノ不思議ナケレド。

薔薇ノ花。
ナニゴトノ不思議ナケレド。
照リ極マレバ 木ヨリコボレル。
光リ コボレル。

(北原 白秋)

2016年5月に読んだ本についての感想 2016.5.12 by 森林浴

『断片的なものの社会学』 岸 政彦 著 朝日出版社刊 2016年2月第4版

紀伊国屋じんぶん大賞2016を受賞した本。上野千鶴子、高橋源一郎などが推薦しているので、読んでみましたが、たしかにユニークで考えさせることの多い本だ。

とくに録音機を使って記録したのだろうか、いろんな人の会話をそっくり記録した聴き書きがやたら面白い。

なかでも、「路上のカーネギーホール」(64頁)と、「夜行バスの会話」(146頁)が忘れ難い。前者は長らくTaxiの運転手をしながら下町のギター一人になった大阪の80歳のおっさんの話で、いきいきした大阪弁で、ギターの名手になってすべてが巧く行き、嫁はんのほかに2号・3号と女がいるなんて、まさに吉本の芝居を見ているみたいだ。

後者は大阪のある30歳の女性からの、2007年ごろの聞き取りらしいが、北九州の田舎から出て来た若い女が、男から男へと「適当に」流れて生きてきて、結局は風俗関係で働いているその人生のけろりとした開けっぴろげな会話の記録。子供なんていないのに「子どもはかわいい」で終わっているところが悲しいが。

『五色の虹一満州建国大学卒業生たちの戦後』 2015年12月第1版

もう知っている人は殆どいないでしょうが、太平洋戦争の前に、当時は日本が支配していた満州国の首都新京に創設された最高学府一建国大学があった。学生は、日本・中国・朝鮮・モンゴル・ロシアから選抜された英才ばかり。この本は朝日新聞の記者がその卒業生に接触して取材し

た本。建国大学が目指していたのは満州国が国是としていた「五族協和」。卒業生の総数は約1400人。彼らは皆その後の時勢の激変の中で想像を絶する苦難の人生を辿り、今生に残っているものも80歳、90歳、もうすぐ一人もこの世にはいなくなるだろう。これに私が興味を持ったのは、実は自分の会社員生活で、ある優秀な先輩が戦前「建国大学」の学生だったと聞いたことがあったからである。この大学は満州で活躍し満州事変の首謀者だった石原莞爾のアイデアから発したものであったようだ。「満州」に少しでも興味があられる方には見逃せない本だと感じた。

『日本沈没』 斎藤 美奈子 著 筑摩書房社刊 2015年10月第1版

斎藤美奈子が朝日新聞の書評を担当していた時に注目して以来、彼女にはいつも注意を払ってきた。とにかく切れ味の素晴らしい人だ。

この本は2010年8月から2015年6月までの話題の本を読んで書いた書評をまとめたもので、彼女によれば、この間、2011年3月、東日本大震災プラス東京電力福島第一発電所の事故があり、3年半で頓挫した民主党政権に代わり、第二次安倍晋三政権の誕生があって、もしかしてこの国は沈没するのではないか、という状況に陥ったと総括される。ポイントがよく整理されており、お蔭で全体の見通しが良くなったという感じがする。

個人的には、『永山則夫事件から見た加害者の「闇』の章がどうしても心にひっかかるものがあった。彼を死刑にして本当によかったのだろうか。

16年5月に入ったおとなの本・文庫

『カッコウの卵は誰のもの』(東野圭吾著 光文社文庫2015) ID16662※request

『聖女伝説』(多和田葉子著 ちくま文庫2016) ID16663

『僕らのごはんは明日で待ってる』(瀬尾まいこ著 幻冬舎文庫2016) ID16664

『孤高の鬼たち』(文藝春秋編 文春文庫1989) ID16679

『本のなかの旅』(湯川豊著 中央公論新社2016) ID16665

『華氏451度 新訳版』(レイ・ブラッド・ベリー著 ハヤカワ文庫ID16666)

『僕の名はアラム』(ウィリアム・サローヤン著 新潮社2016) ID16667

『マーク・トウェイン(ポケットマスターピース06)』(柴田元幸編 集英社文庫)ID16668

『さようなら、ロビンソン・クルーソー』(ジョン・ヴァーリー著 東京創元社2016) ID16669

『ほくと1ルピーの神さま』(ヴィカス・スワラップ著) ID16670

『フードバンクと言う挑戦一貧困と飽食のあいだで』(大原悦子著 岩波文庫2016) ID16671

※文庫以外は文庫便り117-2に掲載

アートフェス参加展示

☆わたしをみつめて展☆

★スタッフ2人が日頃あまり手に取らない本を別置しました。

★国際子ども図書館・児童書翻訳文学の波れをリスト化-沙羅の樹に何冊あるか-若いスタッフがリストアップしました。

★大人も絵本を! スタッフのおすすめ絵本

絵本

『ぼちぼちいこか』(マイク・セラーサク ロバート・グロスマン絵 いまえよしともやく 偕成社) ID11996
 『ことりのおそうしき』(マーガレット・ワイズ・ブラウンツ文 あすなろ書房 2016) ID11997
 『化石を見つけた少女-メアリー・アニング物語』(キャサリン・ブライトン作 評論社) ID11998
 『パンブルアーティ』(モーリス・センダック作 さくまゆみこ訳 偕成社 2016) ID12030※センダック最後の本
 『魔笛』(ミヒャエル・ゾーヴァ画 那須田淳文 講談社) ID11968※おとなにもどうぞ

読み物

『菜の子ちゃんとカップ石』(富安陽子作 福音館書店 2016) ID11999
 『ぼくのなかのほんとう』(パトリシア・マクラクラン作 若林千鶴訳 リーブル 2015) ID11200
 『24の怖い話』(スーザン・クーパー作 ロクリン社 2015) ID12002
 『長い冬』(ローラ・インガルス・ワイルダー作 谷口由美子訳 岩波少年文庫) ID112001※これで「ローラの物語シリーズ1~6」が全部揃いました。※request
 『世界で一番の贈りもの』(マイケル・モーパール作 マイケル・フォアマン絵 佐藤見果夢訳 評論社 2005) ID12003
 『13歳の沈黙』(E. L. カニグズバーク著 小島希里訳 岩波書店) ID12004
 『スモーキー山脈からの手紙』(バーバラ・オコー

2015) ID12011

『さとうとしお』(ひさかたチャイルド 2015) ID12010
 『世界一おもしろい数の本』(K・ルアル/F・ピノー文 J・ジェルネール絵 南條郁子訳 ポプラ社 2015) ID12009

16年5月に入ったおとなの本

フィクション

『ツバキ文具店』(小川糸著 幻冬舎 2016) ID16632
 『やがて海へと届く』(彩瀬まる著 講談社 2016) ID16633
 『ままならないから私とあなた』(朝井リョウ著 文藝春秋 2016) ID16634
 『暗幕のゲロニカ』(原田マハ著 新潮社 2016) ID16635※request
 『十三匹の犬』(加藤幸子著 新潮社 2016) ID16636
 『イサの泥濘』(木村友祐著 未来社 2016) ID16637
 『ジャッカ・ドフニ 海の記憶の物語』(津島佑子著 集英社 2016) ID16676※遺作でしょうか。
 『ガラパゴス 上・下』(相場英雄著 小学館 2016) ID16638~9
 『天才』(石原慎太郎著 幻冬舎 2016) ID16640※request
 『のっぴき庵』(高橋洋子著 講談社 2016) ID16672

ナー作 こだまともこ訳 評論社 2015) ID12005
 『灰色の地平線のかたに』(ルータ・セベティス作 野沢佳織訳 岩波書店 2012) ID12006
 『さすらいのジェニー』(ポール・ギャリコ著 矢川澄子訳 大和書房 初版1987:20刷2010) ID12007
 『よみがえれ白いライオン』(マイケル・モーパール作 佐藤見果夢訳 評論社) ID12008
 『台所のマリアさま』(ルーマ・ゴッデン作 猪熊葉子訳 評論社 1976) ID12034
 『ダンクトンの森 上・中・下』(ウィリアム・ホーウッド作 中村妙子訳 評論社 1987) ID12031~34 ※以上8タイトルは高学年、YAに、文庫の何人かの方からのおすすめ本です。
 『10代のうちに本当に読んでほしい「この一冊」』(河出書房新社編集部編 河出文庫 2016) ID11995

広瀬おばさんから 2016-5

絵本

『ジェーンとキツネとわたし』(ファニー・ブリット文 イザベル・アルスノー絵 西村書店 2015) ID12029
 『そっくりさん どこにいるかわかるかな?』(ブリッタ・テックントラップ作 木坂涼訳 ポプラ社 2015) ID12028
 『ベネロベひめとにげだしたこねこ』(アリソン・マレー作 美馬しょうこ訳 徳間書店 2016) ID12027
 『童のおつかい-今昔物語絵本』(ほりかわりま

『海の宮』(中上紀著 新潮社 2009) ID16640 ID16641
 『うめ婆行状記』(宇江佐真理著 朝日新聞出版 2016) ID16642※遺稿
 『高山右近』(加賀乙彦著 講談社 1999) ID16677
 『アーサーとジョージ』(ジュリアン・バーンズ著 中央公論新社 2016) ID16643
 『アウシュヴィッツの囚人写真家』(ルーカ・クリッパ著 河出書房新社 2016) ID16644
 『過ぎ去りし世界』(デニス・ルヘイン著 早川書房 2016) ID16645
 『僕の違和感 上・下』(オルハン・パムク著 宮下遼訳 早川書房 2016) ID16674, 5

エッセイほか

『亡き人へのレクイエム』(池内紀著 みすず書房 2016) ID16647
 『追憶の風景』(福島泰樹著 晶文社 2016) ID16648
 『母の母、その彼方に』(四方田犬彦著 新潮社 2016) ID16649
 『「私」を受け容れて生きる一父と母の娘』(末盛千枝子著 新潮社 2016) ID116650
 『原節子の真実』(石井妙子著 新潮社 2016) ID16651
 『海の熊野』(谷川健一、三石学編 森話社 2011) ID16652※歴史ハ
 『光の曼荼羅-日本文学論』(安藤礼二著 講談社 2016) ID16653
 『日本語を作った男-上田万年とその時代』(山

こ作 偕成社 2015) ID12026
 『親子でうたい継ぐ子守唄のえほん』(西館好子構成・文 チャイルド本社 2015) ID12025
 『長崎ものがたり お船が出る日』(小林豊文・絵 岩波書店 2015) ID12024
 『みんながらば! はしれはまかせ』(村中季衣文 しろべり絵 新日本出版社 2016) ID12023
 『ぼくのたからもの』(鈴木まもる著 アリス館 2015) ID12022
 『いしをつんだおとこ』(あきやただし著 ハッピーオウル社 2014) ID12021
 『むねがちくちく』(長谷川集平作・絵 童心社 2015) ID12020
 『やぎのしずかのしんみりしたいちにち』(田島征三作 偕成社 2015) ID12019
 『おかあさんのおべんとう』(たるいしまこ作 童心社 2015) ID12018
 『ほかほかすずめ』(山岡ひかる作 アリス館 2015) ID12017
 『まっかっかトマト』(いわさゆうこさく 童心社 2015) ID12016
 『まねっこ』(おぐまこうじさく くもん出版 2015) ID12015
 『絵本星の王子さま』(サン=テグジュペリ原作 マーク・オズボーン監督 堀あいえ訳 徳間書店 2015) ID12014
 『世界のどうぶつ絵本』(前田まゆみ作 あすなろ書房 2015) ID12013
 『ぜんぶわかる! アサガオ』(渡辺弘晴著 ポプラ社 2015) ID12012
 『北極いのちの物語』(寺沢幸毅写真・文 偕成社

口謡司著 集英社インターナショナル 2016) ID16654
 『日本文化に何をみる? -ポピュラーカルチャーとの対話』(東谷護著 共和国 2106) ID16655
 『空海の座標-存在とコトバの深秘学』(高木紳元著 慶応義塾大学出版会 2016) ID16656
 『アメリカの排日運動と日米関係-「排日移民法」はなぜ成立したか』(箕原俊洋著 朝日選書 2016) ID16657
 『新聞と憲法 9条「自衛」という難題』(上丸洋一&朝日新聞取材班 朝日新聞出版 2016) ID16681
 『私たちは死んだらここに帰ります』(高橋吾舟著 徳間書店 2016) ID16658
 『ホームレスさんこんにちは』(松島トモ子著 めぐるくまー 2004) ID16680
 『映画づくりはロマンとソロバン!』(益田祐美子著 アートデイズ) ID16684

新書

『家族という病 1, 2』(下重暁子著 幻冬舎新書 2015, 2016) ID16659~60
 『中世社会のはじまり』(五味文彦著 岩波新書 2016) ID16661
 『「憲法改正」の真実』(樋口陽一×小林節著 集英社新書 2016) ID16685
 『我が詩的自伝-素手で焰をつかみとれ!』(吉増剛造著 講談社現代新書 2016) ID16678
 『風土記の世界』(三浦祐之著 岩波新書 2016) ID16682

※文庫本は森林浴さんのページ末へ掲載